

# NO! リニア

No. 169

2024年4月2日

JR東海労働組合

JR東海労HP  
にアクセス↓



## 2027年開業断念! 静岡悪者論で責任逃れか!

国の有識者のモニタリング会議が3月29日に行われ、JR東海が「2027年開業は実現できない」と表明したと、マスコミ各社が報道しました。また、「仮に今すぐ着工できたとしても開業は2034年以降になる」と明らかにしました。

丹羽社長は会議終了後の取材で、「静岡工区の着工の遅れが開業の遅れに直結するものなので、1日でも早く静岡工区を着工できるように全力を尽くしてまいりたい。地域の方々の理解を得られるように双方向のコミュニケーションを大切に真摯に取り組んでいく」と、開業が遅れる原因を静岡県の責任に転嫁しました。

一方、3月29日に開催した「令和6年度運営方針」についての経営協議会において本部は、2027年開業を断念した理由について会社に質問したところ、「着手できていないのが静岡工区のみだ。開業時期は着手ができていくかどうかで決まる」旨の見解を示し、静岡県悪者論を展開しました。

しかし、着手ができていないかどうかの判断で、開業時期を論ずるのは飛躍があります。いくら着工したからといっても、度重なる工事の中断やトラブル、用地買収の遅れ、残土処理場が決まっていないなど、いくつもの原因で工事が大幅に遅れているのです。一例を挙げると、神奈川県車両基地は用地買収が未完で、今年に着工しても完成は2035年になるという指摘がされています。

会社は、他の工区の進捗状況、各所での完成時期を公開すべきです。「静岡県が悪い悪い」と叫んだところで、説得力はありません。会社は、他の工区の遅れの責任を逃れるために静岡工区の未着手を隠れ蓑にし、静岡県悪者論を世論操作まで拡大させているとしか考えられません。

JR東海労は、リニア建設中止に向けて更に闘います。